

彙 報

一、第六回評議員會 昭和十七年三月十三日、午後五時より東京神田の學士會館にて開き、本年度大會講師の件、原稿料の件等について議し、九時散會した。出席者は新村會長、市河三喜、橋本進吉、辻直四郎、西脇順三郎、千葉勉、神保格の各評議員、小林智賀平、木村彰一、生田早苗、高津春繁の各幹事諸氏であつた。

一、第五回大會 昭和十七年五月九日、午後一時半より東京帝國大學法文經第三十六番教室に於て開催。小倉副會長司會。事務報告の後講演にうつり、講師並びに演題は下の如くであつた。

松本信廣氏 印度支那語族の故土（東南アジア民族移動史の試論）

荻原井泉水氏 言語のガ學（俳句の文的構成について）

千葉勉氏 母音變化と音聲哲學の諸問題

會集者約百五十名。つづいて、夕六時より山上會議所に於て晚餐會を開き、食後諸氏のテーブル・スピーチがあり、談笑の後九時散會した。

一、「言語研究」第十號は、今年五月中に發行の豫定であつたが、またまた印刷難のために非常に遅れたので、第十・十一號を合冊とすることにした。本誌の如く、常に特別の活字を多數鑄造する必要があるものの性質として、やむを得ないのであるが、會員諸氏を永い間お待せした事は、誠に申譯ない次第である。